

日韓市民ネットワーク・なごや

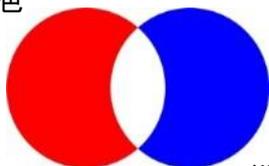
会報 No. 87
2019-12-10

한일 시민 네트워크 · 나고야

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

Home Page: <http://home.m00.itscom.net/nikkan/index.html>

朱色



紺青

目次

- 1 事務局通信
- 2 ニュース
- 3 お知らせ
- 4 北朝鮮壁画紀行に参加して
- 5 事務局後記

統括幹事：後藤和晃
事務局
事務局
参加者の皆さん



事務局通信

사무국 통신

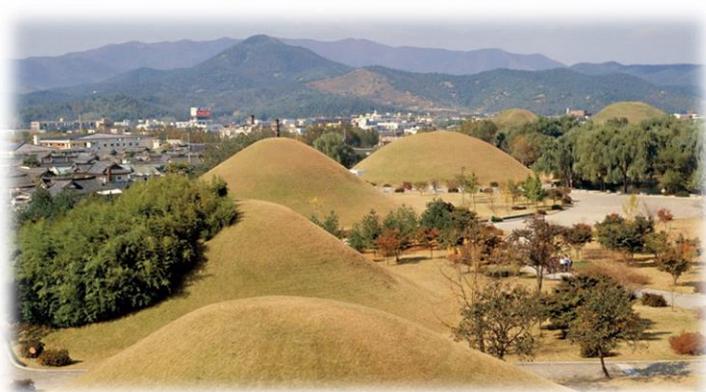
事務局統括幹事 後藤和晃

1. 2020年は<日韓交流>の正念場！

“日韓市民ネット”が発足してから来年2020年は、足かけなんと23年目を迎えます。これまでの永い間、私たちは、韓国の至る所の学生や市民との交流の絆を紡いで来ました。ところが、ここ1年、日韓両国政府の関係は急激に悪化しています。

太平洋戦争終結後、最悪といわれている中で、特に目立っているのが、韓国から日本への観光旅行者の激減ぶりです。8月から9月にかけて前年に比べて半減となり、見るも無残な状況を呈しています。

今や、韓国では「日本に旅行に行く！」と言えば、「この非国民！」という冷たい視線が飛んでくる状況のようです。日本でも同様に韓国への旅行者には「こんな時期になんと物好きな！」といった越えが浴びせられています。



慶州の遺跡群

こうした現状だからこそ、私たちは日本側からより積極的に韓国各地への多彩な旅行を行い、旅行先で出会った市民たちとの友情の芽を育てて来たいと考えます。旅の至る所で過去、20年以上、交流してきた韓国の友人たちとも再会し、隣人同士の絆を再確認することもできるでしょう。

私たちは当面、2ページに記した旅行のうち、2～3のテーマを2020年に実施し、

2022年まで、多彩な旅行を展開していこうと考えています。

この中で、最初にお示した“世界一美しい石仏と桜並木、そして日本人二人の記憶”は、2020年の3月から4月初旬にかけ、実施する予定です。

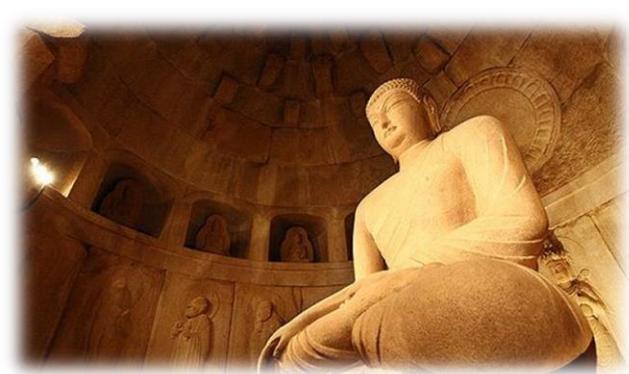
原案では、3月30日(月)から4月2日(木)までの3泊4日。初日に全国各地から釜山空港に集合し、以下のスケジュールで旅行します。

月/日	都市	交通	観光場所	泊地
3月30日 (月)	各地から釜山空港	飛行機		慶州
	慶州	バス	慶州の桜・夜桜	
3月31日 (火)	慶州	"	石窟庵、古墳公園	大邱
	大邱		国立博物館など 大邱の人たちと会食	
4月1日 (水)	大邱	"	寿城池・水崎翁墓	釜山
	釜山		池也可の里など	
4月2日 (木)	釜山 空港	バス 飛行機	プサン港など	



この旅行は、会員の皆さんを含め、韓国に縁のある皆さん方にも提案しています。定員は、大小のバス1台に乗れる数と考えていますが、希望者が多い場合は、バスを増やす事も考えます。参加を希望される方は、封筒のハガキにてお知らせ下さい。

NO	旅行テーマ	旅行概要
1	世界一美しい石仏と桜並木 そして日本人二人の記憶 ～韓国・嶺南の交流史を行く～	奈良時代の日本に大きな影響を与えた新羅の都、慶州。4月には、世界一美しい桜並木が町を覆い、石窟には、これまた世界一美しい石仏が座る。そして隣の大邱市には、日本とのゆかりの深い沙也可の里と、大邱農民の恩人という水崎翁の墓と池がある。
2	韓の国・仏が来た道紀行 ～日本仏教の原風景を求めて～	日本の仏教は聖徳太子の師が百済や高句麗の僧だった事に象徴されるようにインドから中国に伝わったものが、朝鮮半島を経て到来したと言える。韓国の西海岸の一带には、百済仏教の原点、法聖浦、岸壁の釈迦像、古代弥勒寺、扶余の寺々などに日本仏教の原風景が続く。…五木寛之氏の記憶に残る寺も
3	悲劇乗り越え輝く三多島 ～済州島の女・岩・風～	太平洋戦争が終わり、独立した韓国の島、済州島で1948年4月3日、島民の一部が中央に対して武装蜂起した。本土から送り込まれた警察や軍隊の弾圧で、死者3万人以上にのぼったと言われる。多数の人が密かに日本に渡ったとも。その悲劇を乗り越えた島の美しい自然と逞しい人々、日韓交流史の地を訪ねる。 ※最後にソウルで今の韓国の音楽に触れる。
4	韓の国に伝統を求めて ～伽耶琴・アリラン・パンソリ～	音楽や踊りの世界でも韓国やその奥の国々日本の調べや踊りの原風景をうかがうことができる。その象徴が伽耶琴だ。十二弦だが日本に渡来して十三弦になり、和琴となった。韓国各地にアリランそしてパンソリにも日本の芸能とどこか共鳴しているような懐かしさを覚える。 ※最後にソウルで今の韓国の音楽に触れる。
5	陶匠・沈寿官 先祖渡来の道を歩く	著名な陶匠、沈寿官の初代が400年余念年の昔、島津軍に「よって、朝鮮南原で捕えられ鹿見島に至り、子孫たちは世界に高名な薩摩焼を完成させてきた。十五代の沈氏と共に初代の故郷慶尚道青島から文禄の役に巻き込まれた晋州、さらに慶長の役の際の南原など故地を訪ねて行く。 ※十五代が自ら企画・実施している旅行に参加するかたち。



慶州の仏国寺と石仏

2. 岐阜市に水崎翁の胸像設置を決議

11月22日、戦前から今日に至るまで韓国“大邱農民の恩人”として称えられ毎年、大邱市寿城池で追慕祭が開かれている水崎林太郎翁（1868～1939）を顕彰する会の総会が翁の故郷、岐阜市で開催されました。

総会には大邱や鳥取県からの出席者も含め30余名が集まりました。会議では顕彰会会長の岐阜女子大学教授の丸山幸太郎さんが次の3点を提案されました。

- (1) 水崎翁の出身地、岐阜市加納町の役場跡地に水崎翁の胸像を建てる（目標 令和4年）
- (2) 子どもが読める「水崎翁物語」の出版

(3) 上の(1)(2)の実現のため、総経費を400万円余と想定して、2020年から募金を始める
以上の提案は満場の拍手でもって採択されましたが、気の早い人たちから、既に100万円の寄付がよせられているという幸先の良い情報もありました。

ということで来年の適切な時期に会員の皆さん方にも水崎林太郎翁顕彰会からの要望書と振込用紙を送らせて頂くつもりです。同意頂ける方は、協力方、よろしくお願いします。



さて水崎翁の胸像を、なぜ岐阜市に建てるかについては、会員の皆さんは衆知のことと思います。しかし、水崎翁の墓守だった大邱の故徐彰教氏の遺言など、事情を十分に理解できていない方々もおられると思いますので若干、説明させていただきます。

100余年前、大邱へ開拓農民として移り住むまでの水崎翁は、加納町の助役や町長を歴任、蚕糸株式会社も興すなど行動力と多才ぶりを発揮した人物でした。

その間、加納町に師範学校や農学校、さらには国鉄の岐阜駅まで重要な施設を次々と誘致するなど功績は極めて大きいものでありました。

ところが、大正4年（1914）の衆院議員選挙に立候補したものの小差で落選してしまい、次の夢の舞台を朝鮮大邱に求めたのでした。大邱に移った水崎翁は、早速、大きな問題に直面します。入植した大邱市寿城区で、農民たちが長年、農業用水として使っていた新川の水を、市当局によって上水道用に取り上げられてしまったのです。農民たちは怒っていました。



晩年の水崎翁



岐阜時代の水崎氏（右端後）



かつての寿城池

「この土地は、もともと水が少なくて苦労しているのに、頼みの綱の新川の水まで取り上げるなんて！農民に死ねと言うのか！！」岐阜時代、様々な課題を解決してきた水崎翁は、さっそく動きま



水崎翁の墓

「水が無いなら、巨大な農業用貯水池を造ればいい。資金はかかるが、それは川の水を取り上げた公けに負担してもらおうのが筋だ！」

そう考えた翁は朝鮮人の地主や農民たちと力を合わせて立ち上がります。最初の交渉相手、慶尚北道の日本人知事は水崎翁に「君は日本人なのに、なぜ朝鮮人農民のために池だ！池が必要だ！と大騒ぎするのか？」と言い捨てます。水崎翁は「朝鮮人、朝鮮人とあなたは言うが、今や朝鮮人も立派な日本国民ではないのか！？」

その国民が水が無くて困り果てているのを見捨てたら、あなたは、それでも日本国を背負った知事と言えるのか！？と激しく抗議したそうです。やりこめられた日本人知事は言いました。

「そこまで言うなら総督府の担当を紹介しよう。総督府に行ってよく話を聞いてもらいなさい」と。結局、総督府との交渉の結果、水崎翁たちは、今の金額にして10億円余りの資金を得て、3年がかりの工事の末、寿城池を完成させたのです。池の完成によって新たに1000ヘクタールもの水田や畑も造成され水崎翁は、以後、“大邱農民の恩人”と呼ばれるようになりました。

その水崎翁は1939年（昭和14年）に亡くなり、墓は遺言によって、寿城池の畔に朝鮮式で建てられました。

いらい80年の長い間、時おり反日感情が噴出する韓国で墓を守り続けてきたのが故徐彰教さん（1932～2014）の一族でした。徐さんの父、徐寿仁さんは水崎翁が大邱に入植してから亡くなるまで、池の造成から水利組合の運営まで、一体となって協力した人だったそうです。

徐彰教さんは父や兄の後を受け、今から30数年前から水崎翁の墓を守り、不定期だった追慕祭も、毎年4月に実施してきました。生前、何回も水崎翁の出身地岐阜を訪れましたが、訪れる度に残念に思ったのが「岐阜の人たちが水崎翁の功績を誰も覚えていない・・・」ということでした。そのため、徐彰教さんは、生前「自分が生きていうちに林太郎さんの故郷に顕彰碑を建てたい！そうすれば岐阜の人たちも日本と韓国を結んだ水崎さんのことを思い出すに違いない」としばしば口にしていました。

水崎翁顕彰会は、徐彰教さんのいわば「遺言」をいよいよ実行に移そうと動き出したのです。嬉しいのは、大邱の人たちだけでなく岐阜県内ばかりか日本各地の在日の人たちも日韓交流の一助になればと、協力の意志を示して頂いている事です。

日韓関係が戦後最悪と言われている今、この事業は日韓両国民の絆の象徴として、注目を浴びてゆくことでしょ



水崎翁の墓守・故徐彰教氏

玄妙さんお世話になりました。

～ 法隆寺、大野管長が ご逝去 ～

10月25日、奈良・法隆寺の管長、大野玄妙師が肺がんのため亡くなりました。71歳とまだ若く、早逝を惜しむ声が各界から聞こえてきます。

大野師は戦後、間もなくの生まれですが、赤ちゃんの時に重い病気にかかり、危篤に陥りました。その際、父親の知人だった在日の人が「せっかく授かった命だから助けなければ！」と当時、大変高価だったペニシリンやストレプトマイシンなどを手配してくれた結果、命が助かりました。

大野師は、一生、この事実を忘れず「私は韓国の人たちとは深い縁でつながっているんですよ！」と語りつつ、韓国からの大学生交流団を幾度となく笑顔で出迎えて頂きました。

韓国大邱で岐阜出身の水崎林太郎翁の墓を守り続けた故徐彰教さんとも長い間、親交を重ねていました。大野玄妙師のこれまでのご好意に感謝申し上げますと共に心からご冥福を祈ります。



往年の大野師と韓国交流団



알림

お知らせ

第23回総会に、ぜひ御参加を！

～ 2月15日（土）・名古屋国際センター～

日韓市民ネットは20年を超える年輪を重ねてきました。

数えきれないほどの韓国の友人たちと友情を育んできた会だからこそ、日韓関係の戦後最悪といわれている中でも来る2020年から韓国の市民との絆を強める行動を展開したいと考えます。

2020年から、どんな事を、どんな形で実行していくのか2月15日に話し合ひましょう。

この日は、総会に先立って、韓国訪問がより興味深くなる講演を行いますし、総会後には、名古屋駅前のイタリア料理の名店ゼンゼロで日韓の多彩なメンバーで交流します。

ぜひ、ぜひ、気楽にお出かけください！

当日のスケジュール

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1. 講演 | 2月15日（土） 14時30分～ |
| | 名古屋国際センター 5F 第一会議室 |
| 内容 | 義将“沙也可”は紀州・雑賀（さいが）衆か！？ |
| | ～秀吉の朝鮮侵略を止めた日本人武将～ |
| | 講師など詳細は、スケジュールの後に掲載します。 |
| | ※資料代500円を当日、いただきます。 |



2. 総会 2月15日(土) 16時~17時
 ※場所は講演と同室
3. 交流会 2月15日(土) 17時30分~
 ※場所は名駅東のコハクビル2F
 イタリア料理店ゼンゼロ
 電話 052-565-0001



※会費4000円は、同封の振込用紙で郵便から振り込んでください。

4. その他 同封したハガキで、①講演会②総会③交流会 それぞれへの出席の是非をご返信下さい。資料や料理の数などの判断に必要ですので宜しくお願いします。



会場へのご案内です。



伊太利食房ゼンゼロ

住所 名古屋市中村区名駅4-10-22 琥珀ビル2F
 アクセス 地下鉄名古屋駅徒歩3分/名鉄名古屋駅徒歩3分/JR名古屋駅徒歩3分/
 契約駐車場(丸中パーキング)有り
 電話 052-565-0001



※名駅東、ミッドランドの南出口を出て東南へ20~30メートル歩くと道路の南側に琥珀(コハク)ビルがあります

※下記の講演は、日本の市民が韓国への関心を高め、2020年に韓国を訪問されることを祈念して行うものです。

秀吉軍から朝鮮を救った日本人武将
沙也可は紀州・雑賀衆だったのか！？



日時 2020年2月15日(土) 午後2時半～
場所 国際センター5F 第一会議室(80席)
講師 辻健氏(元和歌山県農水産部長)

400余年前の文永の役の際、釜山に上陸した日本軍は、わずか20日間で首都漢城(現ソウル)に到達、以後、無人の荒野を行くかの如く朝鮮の最北端まで兵を進めた。その後、日、明、朝の講和会議が破綻し、1597年、慶長の役と呼ばれる2回目の侵略が行われたが、今度は2ヶ月かかって、やっと慶尚、全羅、忠清の三道を落としたものの、第一次の勢いは全くなく、結局朝鮮から撤兵することになる。

秀吉の野望をくじいた背景に1人の日本人武将がいた事を忘れてはならない。加藤清正軍の先鋒将だったという沙也可である。彼は釜山上陸、早々に朝鮮軍に部下多数を連れ降伏。その後、持参した鉄砲の使い方から鉄砲や火薬の製造法まで朝鮮軍に伝えたため、第二次侵略時には、秀吉軍が至る所で苦戦する羽目に陥ったのだ。

秀吉軍の撤兵をもたらした沙也加の功績を称えて、朝鮮の王は、彼に金忠善という朝鮮名と領地(現大邱市友鹿里)を与えた。

友鹿里には今も、彼やその部下の子孫たち数千名が住んでいるが、長い間沙也可の身元は秘密のベールに覆われてきた。司馬遼太郎の対馬武士説はじめ諸説が乱立していたが、ここに来て、戦国時代に紀州の鉄砲集団として著名だった雑賀衆の将、雑賀孫市の関係者だったとの説が有力視されている。その背景には、作家、神坂次郎の書、「海の伽耶琴」の中で孫市やその子の孫市郎の生きざまが活写されている影響があるようだ。

いずれにしても、沙也可の子孫集団は「自分たちが日韓の絆を守る！」との気持ちを持ち続けているため2012年には韓国政府が沙也加の歴史を伝える立派な韓日友好館を建設した。

雑賀衆の故郷、和歌山では、「雑賀衆・沙也可で街おこしの会」が生まれたり、紀州徳川家の墓地に顕彰碑まで建てられたという。

沙也加でまちおこしの会の会長

辻健氏(元和歌山県農林水産部長)に沙也可の真実を語ってもらう。



大邱市友鹿里の沙也可を祀る鹿洞書院



沙也可のイメージ

※この講演は、申し込みは不要で、受講料500円は当日、会場で頂きます。

とうとう実現！！

北朝鮮への“高句麗壁画古墳”紀行 ～ 2019年9月12～17日 ～

私たちの会は1998年2月に会を創立して以来、日韓交流史に関わる紀行を数えきれないほど行ってきました。日本国内はもとより済州島を含む韓国各地、高句麗、渤海の故地だった中国東北部(旧満州)さらに中国の中でも百済や新羅との縁りが深かった山東半島まで、交流史を学ぶ旅を重ねてきました。

その結果、唯一、私たちが足を踏み入っていない所として残っていたのが北朝鮮国内でした。今年、会の創設から22年目ですが、やっと北朝鮮国内で、念願だった高句麗壁画古墳の数々を見る紀行が実現したのです。

企画をたてて頂いたのは過去10年余りにわたって日韓交流史の講座を担当されている九州の宗像歴史資料館長で元日本考古学会の会長だった西谷正先生でした。

北朝鮮を訪れた一行20人は、翌日から華麗なる装飾壁画古墳とされる高句麗時代の、江西、徳興里、安岳3号墳、など3つの古墳をじっくり見学しました。

また、はるか大昔に古朝鮮という国を開いたという伝説の始祖王、檀君や高句麗をうち立てた朱蒙(東明王)などの王陵群、さらに38度線にも近い中世高句麗王朝の都だった古都、開城の遺跡群まで見学できたのは望外の喜びでした。

内容が余りにも濃い数日間を一人二人では充分、紹介されないので、以下、数人の方々にそれぞれ印象深かった点を書いてもらいました。



高句麗の壁画



高句麗の古墳



高句麗の始祖・東明王(朱蒙)の陵



高麗王宮跡の裏山は子を孕んだ女性の寝姿



霊通寺

会員 石割 三千雄

今回の旅は、未だ国交のない国朝鮮人民共和国（以後、朝鮮、或は共和国と称する）を巡るものであった。大きな目的は今まで、書物でしか見ていない朝鮮の装飾古墳の実物を自分の目で観る事であった。

出発の朝、まだ見ない国への想いに胸が膨らむ。北京を經由して平壤に到着する。共和国への第一歩を踏み出した。まず目にするものは、共和国の人々の日常生活である。街中の人の動きは、自転車と徒歩が圧倒的に多く、バイクが少しと、さらに少しの自動車である。それでも国家の運営は、遅いながらも進んでいるように思われる。

一方、我々が見ようとする高句麗の遺跡は殆どガラスの衝立のような覆いを掛けただけの状態に置かれている。墳室内は湿度100%で水滴を結んでいる。世界文化遺産に指定された貴重にして重要な遺物の取り扱いではない。しかし、この扱ひも国の予算が取れば、という事であろう。このような状態は実は我々にとって幸運なことと言える。壁画にまさに、肉薄して、そして望むならば照明を当てて観察することさえできるのである。

我々は、安岳3号墳や徳興里壁画古墳など数か所の古墳に立ち入りを許されて墳室内へ入った。その中でも平壤で最初に墳丘内へ入った古墳で、最も印象に残った徳興里壁画古墳についてその圧倒的な迫力と素晴らしさを述べておく。

徳興里壁画古墳の概略

被葬者（墓主）；鎮

その風貌；壮年期の活力に満ちた姿が古墳の壁面（2面）に描かれている。

没年；永楽（408）年12月25日

享年；77歳

墓門閉鎖；永楽（409）年2月2日

この年号はこの辺りの古墳が築造された期日推定のメルクマールとなるとされる。



墓主の像



馬上から虎を射る図



牛車の図



太守群像

またこの頃の日本（倭）を照らしてみると、晋書によれば東晋・義熙9（413）年；倭国 晋に方物を献じる；とある頃の事である。この事を見て、推測するに、倭は既に盛んにではないが、海を挟んで、東北アジアで活動していたと考えられる。

今一つ、この旅のテーマである高麗（918～1392年）について、思い出を記しておく。開城と平壤は往復して一日の旅程となる。その中で、開城にある恭愍王（1352～1375年）陵と都城（名を失念）とを拝観した。西にある恭愍王陵（玄陵）と王妃の陵（正陵）とはそれぞれ直径；14m、高さ；6mの円墳で両者は約65cmの間隔を置いて並んでいる。夫婦の仲が良かったものと思われて、思わず微笑みたくなる。

以上が高句麗・高麗を巡る旅を振り返っての概要である。

旅行中何くれとなく心を配って頂き、お世話になった団長、西谷正先生、副団長の後藤和晃様、そして、ツアーガイドの西尾様に深謝申し上げます。

高句麗建国の原始祖 檀君陵を訪ねて 長澤 進

令和元年9月12日から17日に亘り日韓協会から元考古学会長の西谷正先生の引率の元総勢20名が北京経由で北朝鮮平壤開城を中心に世界遺産散策の旅を満喫しました。大同江を中心とした平壤開城の主だった世界遺産に登録されている王侯貴族の古墳、壁画、寺院王宮の遺構、城壁、博物館等を隈なく散策出来ました。今回は最後の日に訪れた江東群文興里の大朴山の山腹に位置する檀君陵に付いて思いを馳せました。

13世紀に初めて一然の記載した三国遺事に古朝鮮の王、天神桓因の子桓雄と熊女の間にも生まれた個人名は王侯です。父は扶余の建国神話に登場する解慕漱と同名で太陽神を奉じ息子に天符印3個を授け徒3000人を率いて太白山頂の神檀樹の下に降臨しました。隣国中国の堯帝が即位して50年目に平壤に都を構え白岳山の阿斯建に移し1500年間統治しています。平壤の名が歴史に初めて乗るのは990頃で当時は松が生い茂る森から松山岳とも呼ばれていたそうです。

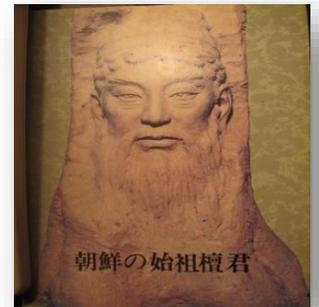
古朝鮮は太祖李成桂が李氏朝鮮を1392年に制定したので二つを区別する意味で檀君の治めた朝鮮を古朝鮮と呼称しています。檀記に依れば紀元2333年に建国し10月3日が開天節とされ中国西北の地域から松花江、黒竜江省、鴨緑江辺、集安、桓仁あたりまで領土を拡張していました。長春の扶余族から高句麗は発生しています。

以後漢の武帝により紀元前108年に古朝鮮は滅び大同江の西岸に楽浪郡が設置され近くには帯方郡も制定され中国の影響は甚大でありました。

興味深いのは韓国の三国時代の百濟新羅にしても建国の祖は皆父が居なくて捨てられた神話に満ち卵から生まれていることです。中興の高句麗の王東明聖王の名は高朱夢、弓の上達者です。集安、国内城から西暦3年に平壤に移動して来ています。戦後偶然大朴山の山腹から二体の遺骨が掘られそれが放射線炭素の測定から5千年前の物だと比定されています。帝の体形と傍らの女性の骨盤の状況から王族に匹敵する貴族の墓と断定しています。

広大な敷地の檀君陵は改築記念碑、4人の息子の巨大な石像、4人の重人の像が建立されています。

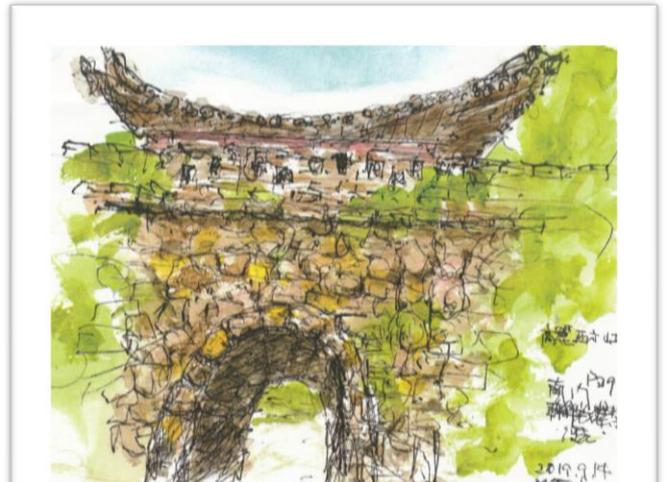
檀君陵の歴史的話題真偽は兎も角短期間の間に労働党時代の今、金日成、金正日の親子が民族の誇り伝統を重んじて制作した意欲には素晴らしく感動させられました。



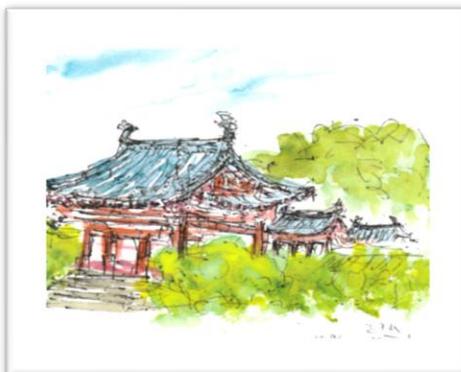
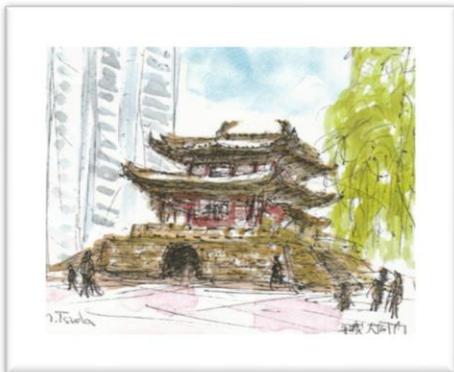
高句麗壁画古墳の旅」に参加して 津田正夫

今回、第二回高句麗壁画古墳の旅に加えていただき、貴重な高句麗・高麗時代の壁画古墳の一端に触れたことは素晴らしい体験でした。かつて高松塚古墳で、北極五星などの紫微垣や二十八宿を見た時の不思議な興奮を思い出し、そのルーツに出会ったことに感激しました。帰国して改めて全浩天『世界遺産・高句麗壁画古墳の旅』、田中史生『渡来人と帰化人』、西谷先生の『地域の考古学』などで学びなおしています。

古代史に素人の私には壁画の意義などの意見は言えませんが、今回の旅で印象深かったことは、開城の街の美しさ、共和国の人たちの暮らしぶりです。終始誠実に案内していただいたキムさん、チュンさんとの折に触れての雑談で、僕が「平壤では年寄りはいあまり見かけませんね」と訊くと、「いやあ裏通りは年寄りばかりです。日本と同じく少子高齢化は深刻です」とか、「戦争体験を若い世代に語り継いでいくのは苦勞してますよ」と“非公式”に漏らされた感想が興味深いものでした。お節介ながら、農地の活用や庶民の暮らしなども心配してしまいました。



城門や山寺を描いた津田氏のスケッチ



高句麗時代の靈通寺と大覚国師 長澤進

令和元年2019年9月12日から17日まで北朝鮮平壤、開城を中心に日韓協会から高句麗時代の歴史散策に参りました。大同江を中心とした古代朝鮮の世界遺産を主に今回は印象に残った開城郊外18キロ離れた山麓に11世紀初頭建造された靈通寺と韓国天台宗の開祖大覚国師について記載します。日本では鎌倉初期北条時宗の時代でこの頃はアジアで中国の宋を中心に禅宗、律、華嚴宗、天台宗が繁栄し隣国も天台宗が重んじられ第11代の文宗の4番目の息子で後に高麗第一の高僧になる義天が国清寺、靈通寺の開山をしています。



靈通寺

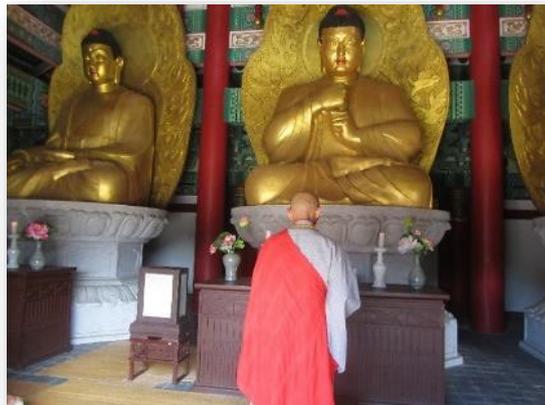
11歳で僧となり始めは華嚴宗、律、等を学びに1085年宋に渡ります。1000冊もの宋、遼、日本の經典を持参し政治にも参画し長年の大作大藏經の版木にも着手しています。1232年にモンゴルの進撃に遭い高宗19年兵火により焼失。後日江華島に移し最後は慶尚南道の伽耶の海印寺に保管され1995年に世界遺産に登録されました。偶然10年前私はこの寺に訪れ膨大な仏典を見まして1524部と目録が保管されていたことに改めて韓国宗教の奥深さに感銘しました。我が国の時宗が敬服して止まなかった理由を知りました。

世界各国に旅して感じますことは古代の民、住民は大きな施設城寺院宮殿等を建設する折風水の力を取り入れているのか実に感銘するほど素晴らしい自然環境戦略防備に配備されていることです。

2018年11月22日京都の臨濟宗館長有馬頼底が日本の仏教界を代表してこの寺に訪問しています。宗派を超越して世界平和を祈願して念仏を唱えていました。

この境内は広くモンゴルに襲撃されて後最近になってやっと修復改修されています。奥深い自然の溪谷に静かな落ち着きを満喫できます。又訪れる参拝客に御経を唱えて呉れる僧もいて好感が持てます。

最近是天台宗との関係から日本の寺院との交流も深まり正しく政治の世界を超越した感に満ちた北朝鮮の名刹として存在感があり多くの観光客の脚光を呼び寄せて来ました。



こすもす 秋桜の咲く「高句麗」を訪ねて 重信佐和子

日本有数の彩色壁画古墳として知られる奈良県明日香村の高松塚古墳、キトラ古墳。そのルーツともいえる極彩壁画が遺る江西大墓ほか、世界遺産に登録された貴重な遺跡を訪ねて、9月12日～17日、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を訪れた。そこで見ることでできた古墳、陵、寺院、城址などの一つひとつが、どこかで古代日本とつながっていたことを知るにつれ、現在の近くで遠い同国と日本の距離が残念に思えた。



ピョンヤン

同国への旅には、正直いって少なからぬ緊張感、不安感があった。けれども、北京空港経由で平壤国際空港に着き、私たちを乗せたバスが平壤市内に入る頃には、旅への期待のほうが大きくなっていった。それは、日が暮れようとする中、家路を急ぐ人たちの生き生きとした表情に誘われたからかもしれない。市内にはトロリーバス、バスが行き交い、意外にもタクシーも多かった。

といっても主な交通手段は自転車と徒歩のようで、とくに背筋を伸ばし足早に歩く女性たちの姿がハツラツとしていて印象的だった。多くの女性は、中ヒールのサンダルやパンプスにタイトスカートと清楚なスタイルだが、日中、女性の差す日傘には賑やかな金銀の模様があり、街に華やかさをもたらしていた。父子、母子が手をつなぐ微笑ましい姿もあちこちにあり、意外？にも手をつないで歩く男女も多かった。

市内の高層ビル、マンション群などの近代的な光景も、市内を外れるとすぐに稲穂が金色に輝く田園風景へと一変した。車窓から、川で洗濯をする女性、頭に荷を乗せて歩く女性、または荷車を引く牛などを目にして、旅人の勝手さで、のどかさ懐かしさを感じた。市内よりも老人の姿が多く、老若にかかわらず農村の人たちの表情は硬く見えたが、ある時、荷車の上に座った子どもがにっこりして手を振ってくれた。それぞれの地域の伝統だろう、村ごとに建物の形も、赤、白、青など屋根瓦の色も違っているのが美しく、そんな穏やかな景色に、ふと、中国映画の『初恋の来た道』を思い出した。

20年余を経た撮影地には、今は高層マンションが林立し、台所には電気炊飯器が置かれているかもしれない。果たして、いま目にしているこの風景は、10年後、20年後、どのように変わっているのだろうか。せめて、高速道路だけでなく古代山城跡に続く山道にまで、沿道に連なっていた秋桜は、いつの秋にもその可憐な花を咲かせてほしい、とこれも旅人の勝手さで願った。

訪れたときはちょうど日本のお盆にあたる秋夕（チュソク）で、丘の斜面一面に並ぶ土饅頭それぞれに、家族たちが掃除をしたり、飲食をしている光景が見えた。人は、いろいろなところで違う暮らしをしていて、でも、同じようにも暮らしているのだなあ、と改めて思った。



主要道路脇には必ずコスモスが咲いている

北朝鮮は、ぜひ“朝鮮国内旅行”の開放を！！ ～ 東アジア諸国の交流のために～ 後藤 和晃

北朝鮮でピョンヤンから開城(ケソン)までの間を6日間、東奔西走した私は、「この国は、素晴らしい観光資源を数多く抱えている。国内をもう少し、観光スポットの施設を充実したり、交流史に詳しいガイドを増やしたりすれば、これまでの3倍、5倍の観光客が日本や韓国、中国、台湾などからやってくるだろう！」と思いました。



ピョンヤン

風景でいえば街の中央を大同江が流れるピョンヤンの市街は、想像していたより、はるかに現代的で、造形の美をこらしたビル群に目を見張りました。一方農村部では低い山の麓に田畑が広がり、わずかな人影と農耕に使われている黄色い牛が見える程度で100年前から時間が停まっているかのような自然の美しさが残っていました。

1000年前の高麗の古都、開城には、ゆるやかに振り返った瓦屋根と白い壁が美しい建物が小川を挟んで立ち並んでいる旅館街があり人気スポットとなっている。そんな風情の中に佇んでいると朝鮮王朝時代にこの町に住み、古都の男たちの心を一人占めしたという伝説の美伎にして才女、黄真伊の姿が臉の裏に浮かんできます。黄真伊を想起

させるような女性が、伽耶琴(カヤグム)をつま弾き、優美な舞などを見せれば、間違いなく観光客を魅了することでしょう。

旅館街から少し行くと高麗時代からの石橋、善竹橋が残っていました。ここは高麗王朝の末期に、最後の忠臣といわれた鄭夢周(チョン・モンジュ)が王朝の転覆を図った刺客の手で暗殺された所として有名でした。

開城に限らず北朝鮮の各地を訪れる度に、中国・髓の高句麗征伐の大軍を何度も撃退した名称、乙支文徳(ウルチ・ムンドク)の名や、隋に代わって登場してきた唐と交渉したり戦ったりした泉蓋蘇文(チョンゲ・ソムン)の名、さらに渤海を興した大柞栄(テ・ジョヨン)など將軍たちの名をよく聞きました。

こうした数々の英雄たちの物語をショウ化して観光客を呼ぶことも出来るだろうと思いました。北朝鮮を去る前、夜に私たちは、ピョンヤンの大競技場での多彩なマスケームに酔いましたが、すぐれた演出者がいて、躍動する数千の踊り手が、いるわけですから、高句麗や高麗などの英雄たちの物語をショウに仕上げることは、たやすいのではないかと思います。

いずれにしても、北朝鮮の人々が観光や工業などの振興に関心を移し、多彩でかつ自由な国内旅行を、外国人に提供するようになれば、私たちも、もっと頻繁に北朝鮮を旅行することができるでしょう。



古都開城の旅館街



赤牛のいる農村風景



ピョンヤンの女性たち



林間で会食する人々



事務局後記 사무국후기

○11 月末頃から戦後最悪と言われている日韓両国政府の関係に、わずかながら改善の兆しが見え始めたと伝える報道があい次いでいます。

両国の関係を極度にまで悪化させてきた徴用工への補償問題について、双方が、なんとか受け入れられる落とし所が見えてきたようだというのです。

いずれにしても、2020 年が民間交流にとって佳い年になるように願いたいものです。

○11 月 29 日、名古屋国際センターでの事務局会議に大阪から強力な新メンバー岩田晋（すすむ）さんが参加しました。事務局の後藤と同様に、江南市古知野中学校や早稲田大を卒業しサラリーマン退職後は、韓国高麗大学と交流を重ねているという人物です。高麗大へは、なんと 4 年間留学し韓国史や韓国語もマスターしたうえで、大阪の YMCA を拠点に韓国各地の YMCA と交流するなど韓国に対する愛情はハンパではありません。

来年 2 月 15 日の交流会も出席されますので、皆さんも ぜひ対話願います。